

8 番 清 水

受付番号6番、質問議員8番、清水明でございます。

件名、「地域の文化財の継承、存続を問う」。

山北町は「観光立町」である。歴史的資源としては河村城址、河村新城、室生神社の流鏑馬、お峯入り等がある。

自然的資源としては洒水の滝、丹沢湖、ユースンブルー等、名だたるものがある。

翻って、文化財とは認められてはいないが、それに相当する歴史的な文化財が地域にはある。今それらのものが継承、存続をめぐる危機的状況にある。そこで問う。

1、毎年1月に行われている山北地区の道祖神祭は、町内外から多くの観光客を呼んでおり、町の年中行事として定着している感もある。しかし、少子高齢化のため年々その運営が厳しくなっている。そこで、単に地域の一行事ではなく町の観光資源及び町の文化財として保護、継承する考えはないか。

2、11月の室生神社の祭典は、流鏑馬行事で県下に知られているところであるが、それに先だつての町内巡行は神社と連合自治会がその運営を行っている。花車保存会やみこし保存会の努力があり、ぎりぎりのところで毎年実施されているが、先の見通しが厳しい状況にある。この町内巡行を室生神社の神事と切り離し、町の文化財として保護、継承していく考えはないか。

以上であります。

議 長

答弁願います。

町長。

町 長

それでは、清水明議員から「地域の文化財の継承、存続を問う」についての御質問をいただきました。

初めに、1点目の御質問の「毎年1月に行われている山北地区の道祖神祭は、町内外から多くの観光客を呼んでおり、町の年中行事として定着している感もある。しかし、少子高齢化のため年々その運営が厳しくなっている。そこで、単に地域の一行事ではなく町の観光資源及び町の文化財として保護、継承する考えはないか」についてであります。現在、町内では道祖神祭をはじめ、どんど焼き、夏祭りなど昔から伝わる伝統的な行事が各地で開催されておりますが、その多くが少子化に伴う参加者の減少や高齢化などにより

運営が厳しくなっている状況や、さらに新型コロナウイルス感染症の影響で、ここ二、三年は中止せざるを得ない行事もあり、多くの方が大変御苦労なされていることも承知しております。

山北地区の道祖神祭についても、令和2年1月を最後に中止となっておりますが、中止前は多くの見物客が訪れ、特に山北駅前での解散式の際は、各庭の花車やみこしに明かりが灯り、写真愛好家が数多く集まっておりました。明治百年を記念して、昭和43年に山北連合自治会主催により行われるようになったとされる合同巡行は、私も地域の大切な行事として認識しており、町でも山北連合自治会からの要望により、平成26年度から町のホームページで道祖神祭の日程を掲載するなど、支援に取り組んできたところです。しかし、道祖神やどんど焼きは山北地区のみで実施されている年中行事ではありません。町内各地域で行われており、地域の大切な行事として継承されております。したがって、山北地区の道祖神祭のみを町の文化財に指定することは難しいと考えますが、地域の歴史や文化を守り、後世に伝えていくことはとても重要であると考えておりますので、地域行事を町の観光振興へ結びつけていけるよう、町としてはホームページだけでなくSNSを利用した情報発信など、若年層へのPRなどの支援も積極的に行ってまいります。また、現在も各自治会で道祖神祭やどんど焼きなどの地域行事に活用いただいている生涯学習活動助成金も継続するなど、町としてできる支援を行っていきたいと考えております。

次に、2点目の御質問の「11月の室生神社の祭典は、流鏝馬行事で県下に知られているところであるが、それに先だって町内巡行は神社と連合自治会がその運営を行っている。花車保存会やみこし保存会の努力があり、ぎりぎりのところで毎年実施されているが、先の見通しが厳しい状況にある。この町内巡行を室生神社の神事と切り離し、町の文化財として保護、継承していく考えはないか」についてであります。1点目の御質問の道祖神祭など、地域の行事と同じく、神社の祭事についても少子高齢化などに伴う担い手不足により御苦労されていることと認識しております。このような状況は、山北地区の室生神社だけでなく、岸地区の八幡神社、向原地区の天社神社など町内各地の神社などにおいても同様であると考えております。文化財は指定

の有無にかかわらず、所有者や団体が保護、継承していくものであります。地域の人々が大切にしてきた伝統文化を衰退させず継承させていくために、子どもたちの成長を地域で見守り、子どもの親である若い働き世代が山北町の歴史を知り、その文化を担ってきたのは誰なのか、将来へ向け誰が受け継いでいくのか、十分理解してもらえるよう、地域社会全体で共通認識をする必要があります。その中で、地域として、そして町として何が支援できるか検討し、持続可能な伝統行事の実現を目指していくことが大切であると考えております。

議 長 8番、清水明議員。

8番 清水 1、2を通じまして、今回は帰属意識がコンセプトです。先ほど藤原議員からもありましたが、この帰属意識について、ぜひとも訴えたいということで質問いたします。

御存じでしょうが、町に対して一体感を持つかどうか。それでその一体感ほどの程度のものなのかということ、できれば検証していきたいと思っております。

冒頭述べましたが、山北町は数多くの観光資源があります。そして豊かな自然があります。ですから、人々を呼ぶには事欠かないと思います。そういう中で、町は定住対策、ずっと努力をされてきています。みずかみテラスもできました。また、観光客を呼ぶということもやってまいりました。その中で、実は町の社会教育委員会が研究を続けてきました。これは、この前の町の広報の中に挟まれていたものですが、「子どもたちを育成するために、よりよい地域社会の構築、共生と教育のまちを目指して」という中で、この2年間ですか、子どもたちが参加をするお祭りについての研究をされてきました。本来ならば、県の集会で発表するということでしたが、コロナの関係で紙上発表になったようですが、その中で、山北地区は道祖神祭、萩原の地藏尊祭、どんど焼き等、それから岸ではふれあい交流会、この前花火を頑張って打ち上げてくれました。それから、向原では夏祭り、夏季交流イベント等、共和は夏祭り、子どもみこし、ゲートボール大会、清水地区は春祭り、夏祭り、どんど焼き、それから三保は秋祭り、素人演芸大会というのが。というように、様々各地区で子どもたちを中心にいろいろなお祭りをしてき

ました。

その子どもたちですけれども、2020年にはゼロ歳から14歳までの年少人口が山北町881名でした。これが2045年、ちょっと先になりますけれども、年少人口は369人の予測であると。つまり半分以下になってしまうということです。ここで道祖神祭を取り上げましたが、答弁にもありましたように、山北だけがやっているわけではないと。ほかのところでもやっている。ただ、私の勉強不足で、ほかの地区の調査が行き渡っておりませんので、山北だけに限らせて、今回質問をさせていただきます。

道祖神祭は小正月、歳の神祭りとも言いますが、子どもが中心となって火祭りを行うと。私がまだ小学生ぐらいのときには、本当に子ども、中学3年生が主になって運営を行っていたようです。そういうことで、子どもたちの祭りというふうになっています。現状では、1月の15日に町内巡行を行います。これは連合自治会が運営の主体となっております。私も4年間やらせていただきましたが、そのうちの一つの清水庭、要するに上清水、中下清水ですが、実は花車の中で太鼓をたたきますが、その子どもたちが非常に少なくなっていると。そして、これ2年間blankがあって、今年何とか実施をしたいということですが、果たして、たたく子はいるのか。大人たちの中では、この際CDにとって、それで流そうというのが一案。それからもう一つは、昔の子どもにたたいてもらう。ちょっと言い方があれですが、要は、私よりもちょっと年齢の高い人たちということになります。どういうわけか、私が小学校高学年から中学生にかけては、この道祖神祭が中断された時期があります。したがって、私は太鼓がたたけません。そういうようなことで、まず太鼓のたたき手、それから、引っ張る引っ張り手。これ子どもたちがいっぱいいて、町内をぐるぐる回っていましたが、今は子どもたちが少ない。そして大人たちも少ない。将来的には車輪をタイヤにして、なおかつブレーキをつけるとかなんてことを考えていますが、それほどにちょっと厳しい状況になります。

そういう中で、本来的にはそれは地域の問題じゃないかと考えるのが普通だと思うんです。しかし、あと5年、10年を考えると、本当に存続が厳しい。それで、今中心になっている人たちは、あと10年という、私も含めてもう

運営にタッチしていないんじゃないのかということ。どうするのかということ、物事は5年、10年を考えてやっていかなければいけないんですが、先送りにしてしまうと。まだ一、二年はできる。だからそれから先のことは後の人に考えてもらおうという状況になりつつあります。非常に厳しいところになっています。

さて、それで、このお祭りなくなったらどうなるのかということ、先ほどの帰属意識というものが出てきます。平成27年に行った自治会活動に関するアンケートというのがあります。「山北町に住む理由としては」ということで、1,000人の方にアンケートをお願いをして、507人から返ってきました。山北町に住む理由、「生まれたときから住んでいる」という返答が239。47.1%でした。「実家が山北町外にあるが、実家が近い」というのが116。22.9%。「隣近所の付き合いがあるため」、28。5.5%。これがちょっとした肝です。「身内や知人がいるため」58。11.4%。「物件があった。紹介されたため」が106。20.9%。「自然環境が豊か」91。17.9%、「町の雰囲気が好き」21。4.1%ということでした。

つまり、生まれたときからずっと住んでいるからいるんだよということ。それから知人がいる。つまりこの辺が、要は山北町に住んでいる、住んでいたいということの帰属意識に関わってくるのかなというふうに思われます。

それで、じゃあ、どういうふうにしたらその帰属意識、あ、自分が山北の人間なんだなということを思わせるのかというのは、やはりこのお祭り、それからみんなが集まる、例えば、昔は町民運動会がありました。たくさんの方が集まりました。それから小学校、中学校でも地区別リレーというのが山北地区ではありました。これは、かなり子どもも大人も熱中をしました。

議 長  
8 番 清 水

清水明議員、少し、お願いいたします。要点をまとめて。

ということで、その帰属意識ということで、それがなぜ希薄になったのかというのは、やっぱり地域コミュニケーションが不足をした。つまり集まらない。集まれない。そういうことから、ちょうど時期が今秋ですが、まだ秋じゃないか。秋深し隣は何をする人ぞということで、隣近所もよく分かっていました。でも今なかなかそれがない。どこにどんな子どもがいるか分からないということで、これはそういう意味でこのお祭り、非常に大切である

と。そして、それに参加したことによって一体感が生まれたということが、社会教育委員会の研究に載っています。そういうことからして、それは地区のことだということではなくて、町のほうで財政的な援助も含めて、お答えもありましたけれども、もうちょっと手厚く、限定的にこれはお祭りに使うよというようなことでの予算立てはできないものか。長々になりましたが、これが質問です。

議  
町

長  
長

町長。

清水議員のおっしゃることは、もつともだというふうに思いますけども、町には様々な行事があつて、同じように非常に人口減少、子どもの減少ということですね、悩んでおります。私がかつて川村小学校のPTAの会長をやっていたときは750人ぐらいおりましたけど、その後は半分になり、今さらにそれより下回っているというのが現状であります。そういう中で、皆さんがお祭りとかそういったものを、実施をとということで御苦労なさっていることは本当に大変だというふうに思いますし、町のほうとしてもできる限りそういったような支援のできるものについては支援していきたいというふうには思いますけども、一方では、例えば5年に一遍のお峯入りが来年あります。共和地区のほうに人口、御案内のように、山北の何分の1ぐらいしかございませぬ。それでも5年に一遍の行事をやつていこうと。そして、知恵を絞つてやっております。

そういったような中で、そういったようなことをやはり考えていただいて、何とか存続できるような方法はないかというようなことを考えていただいて、その中で我々としてできることが何かあるかということを考えていかなければいけないなというふうに思っています。私も、例えば向原の子ども会やりましたけど、その後解散してなくなってしまいました。そのときにはよく子どもみこしとかそういうのを行事で子ども会でやりましたけど、それがなくなっていくのは本当に寂しいものでございますけども。そういったときに、やはり何か方法はなかったかなというようなことを少し考えますけども、ぜひ存続できるように、知恵を絞つていただいて、町も支援をさせていただければというふうに思っております。

議

長

清水明議員。

お祭りに今回限定をしてやっておりますが、やはり人々が集まって、たわいない話もしながら情報交換をしながら、そういうところから帰属意識が生まれてくると。そういう点では、残念ながら様々な行事がなくなってきました。これはもう人口が減っているからやむを得ないといえばそれまでなんです。しかし本当にこのままにしておくと、さらに帰属意識の希薄化、弱く、交通難民の問題もある。買物難民の問題もある。そして全国的には都市に集中してしまう。そういう中で、山北に住んでよかったと思うことを今やらないと大変になる。

じゃあどうするのかということ、一つの提案としては、ここに上げたようにみんなが集まる。そして、やっぱりこの調査の中で行事をやる。そうすると、子どもたちのつながりが広がる。地域住民と顔見知りになることが地域に生きる一体感や安心感につながり、ひいては地域文化の継承者としての自覚や意欲につながる等の研究発表が出ています。そういう機会を何とか、そういう意味では、今度秋にまたまたフェスタがありますけれども、やはり集まるということはとても大切であるということになります。人口減少であります。そういう点では、先ほど山北に住みたいということで帰属意識を植え付けるんだ。というか、育てるには非常に大事であるということ。そういうことを含めて、地域の問題ではありますけれども、やはり財政的な面等も含めて、先ほど町長、努力をしてくださると。地域がまず頑張んなきゃいけないんですけども、そのための助成を、やはりこれは連合自治会が中心になっていくべきかなと思います。そういった相談をぜひともつくるような機会を持っていただけないかなということ、その辺について、何でもかんでも金を出せということではありませんけれども、知恵を絞りながらやっていくということでの窓口を明確にいただけるとありがたいです。

議 長

町長。

町 長

道祖神祭にだけに限ったことではございませんけども、コロナで各イベントがことごとく中止になってしまって、私としては何とか存続していただきたい。何か工夫して、縮小してでも何でもやっていただきたいということで、各連合自治会の中に2年間、助成を。ほとんど用途を特定しないでやらせていただいております。100万円プラス母数ということですから、山北の連合

自治会には、多分200万円以上はやっているんだろーというふうに思いますけど、それが十分とは思いませんけども、ぜひそういうようなことを考えに入れながら、その一部分でも充てていただくようなことを連合さんで考えていただいて。ぜひ、そうすればほかの行事もみんな私も私もというふうに言うかもしれませんが、そういったような工夫を、ぜひお願いしたいと。岸の連合自治会では、花火をやっていただきました。あれも本当に、なかなかできないから、せめて花火というようなことで企画したんだろーというふうに思っております。そういった意味で、ぜひ工夫していただいて、そして足りない部分があれば、町のほうで財政的に余裕があれば、さらに増額ということも考えないわけではございませんけど、コロナが、とにかくもう3年目ということで、非常に皆さんイベント等には苦勞しているということは承知しておりますので、そういったことをぜひ御理解いただければというふうに思っております。

議 長 清水明議員。

8 番 清 水 今回のコンセプトが帰属意識ということで、一、二点思うんですが、室生神社、神社そのものに助成金を出すのは、これは難しいと思いますが、巡行ですね、練り歩き、それからあと露店等のお祭りですね。やはりあれは、かなりほかの町からも来ている。楽しみにしているということで、その辺について、ここにも書きましたが、実行委員会等をつくって、町が助成をするということは考えられるでしょうか。

議 長 町長。

町 長 かなり難しいというように思います。そういう特定の露店とか、そういったもののお祭りに、町の税金を助成するというのはなかなか難しい。ですから、各連合自治会に特定しないで助成させていただいて、使途については、なるべくイベントとか何かに使っていただけたらというようなことで申し上げたわけですから、そういった意味で、なかなか今の質問にはちょっと難しいんじゃないかというふうに思っております。

議 長 清水明議員。

8 番 清 水 今のお答え、当然想定内というか、質問しているほうが若干愚かさなような気がしますけれども、ただ、本当にありがたいのは、生涯学習活動助成金



ということで、自治会何に使ってもいいよということで、あれは非常に大きな助けになっております。先ほどの話では、増額も考えるようなこともちらっと言われたような気もしますので、それを期待しながら、これは地域の問題であるということで、地域が頑張るように、自治会活動を応援していきたいと。なおかつ、やはり町にも、いろいろな面で助成をしていただければというふうに思っております。

何といっても帰属意識、山北町でよかった。そう思わせることも定住対策の一つではないかなと思いますので、その辺も含めて最後、人口が減るのはやむを得ないにしても、山北がもっと頑張れるようなということで、町長に一言いただければありがたい。

議 長 町長。

町 長 帰属意識というのは、非常に大事なことだというふうには思っておりますけど、一方では、新しく遠くから山北町に住んでいただく。しかも、あまり山北町に、さほどいったような縁があるわけではない方まで来ていらっしゃる。そういったような方も含めて、もう一度町を好きになっていただいて、そして、いろいろな行事に参加していただけるような、そのようなまちづくりをしていきたいというふうに思いますので、ぜひ御理解いただければというふうに思います。

8 番 清 水 終わります。